山梨県埋蔵文化財センターシンポジウム

縄文時代の植物資源の利用・管理・栽培を考える

遺跡から出土する植物遺体を対象とした植物考古学の研究は、今世紀に入り飛躍的に発展しました。縄文時代における特定有用植物の存在や低湿地遺跡から出土した多様な植物から、その利用が明らかになってきています。こうしたなかで、狩猟・漁労・採集を主体とした縄文時代の生業観の見直しにもかかわる議論が活発になっています。

このシンポジウムでは、最新調査や研究を踏まえて、縄文時代の植物資源利用の実相を浮き彫りにしていきます。

石井礼子画　工藤雄一郎提供

パネラー紹介

会田　進　明治大学黒耀石研究センター

1947年生。 明治大学文学部史学地理学科考古学専攻。 岡谷市教育委員会を経て、 前長野県考古学会会長。 現在、明治大学黒耀石研究センター研究推進員。
著書に『諏訪大紀行』（共著）一草社2007

磯野　治司　北本市教育委員会（埼玉県）

1962年生。 立正大学文学部史学科考古学専攻。
現在、 北本市教育委員会教育部副部長兼文化財保護課長。
著書に「縄文時代中期の環状集落と低地遺跡－埼玉県北本市デーノタメ遺跡」『季刊考古学』第138号 2017

工藤　雄一郎　国立歴史民俗博物館

1976年生。 東京都立大学大学院人文科学研究科。2007年博士、 東京都立大学。 現在、 国立歴史民俗博物館准教授。
著書に『旧石器・縄文時代の環境文化史－高精度放射性炭素年代測定と考古学－』新泉社2012

佐々木　由香　株式会社パレオ・ラボ

株式会社パレオ・ラボ統括部長　明治大学黒耀石研究センター客員研究員。
著書に「縄文人の植物利用―新しい研究法からみえてきたこと―」『歴博フォーラム ここまでわかった！ 縄文人の植物利用』新泉社2014

佐野　隆　北杜市教育委員会（山梨県）

1964年生。慶應義塾大学文学研究科。
現在、 北杜市役所教育部学術課。
著書に「レプリカ法と縄文時代の生業・集落研究の展望」『土曜考古』第39号　2017
縄文時代の生業と集落を統合して縄文時代像を考えたいと思いドングリを数えています。

篠原　武　ふじさんミュージアム（山梨県 富士吉田市）

1979年生。 明治大学史学地理学科考古学専攻。
現在、 ふじさんミュージアム学芸員。
著書に「縄文時代中期の富士山の火山活動と遺跡の様相」『日本考古学協会2017年度宮崎大会資料集』

千葉　敏朗　東村山ふるさと歴史館（東京都）

1961年生。 明治大学文学部史学地理学科考古学専攻。 現在、 東村山ふるさと歴史館学芸員。
著書に『縄文の漆の里　下宅部遺跡』新泉社2009

中山　誠二　山梨県埋蔵文化財センター

1958年生。 中央大学文学部史学科東洋史学専攻。
2010年博士（文学）、 東海大学。
現在、 山梨県埋蔵文化財センター所長。
著書に『植物考古学と日本の農耕の起源』同成社2010

能城　修一　明治大学黒耀石研究センター

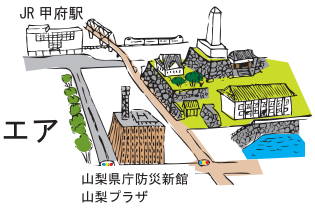
1956年生。 現在、 明治大学黒耀石研究センター客員研究員。
著書に「鳥浜貝塚から見えてきた縄文時代の前半期の植物利用」『さらにわかった！縄文人の植物利用』新泉社 2017
「木材の構造による樹種の識別」『仏像の樹種から考える古代一木彫像の謎』東京美術 2015
「遺跡出土植物遺体からみた縄文時代の森林資源利用」『 国立歴史民俗博物館研究報告』第187集 2014
「縄文人は森をどのように利用したのか」『ここまでわかった！縄文人の植物利用』新泉社 2014 など

講師紹介：あいうえお順

会　場

山梨県庁防災新館 1F
山梨プラザ　オープンスクエア

JR 甲府駅南口から徒歩 5 分



問合せ　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県甲府市下曽根町 923
TEL 055-266-3016 FAX 055-266-3882